

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	地域計画の共有促進のための計画枠組みに関する研究
Title(English)	
著者(和文)	石神孝裕
Author(English)	Takahiro Ishigami
出典(和文)	学位:博士(工学), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第10700号, 授与年月日:2017年12月31日, 学位の種別:課程博士, 審査員:屋井 鉄雄,中村 芳樹,室町 泰徳,松岡 昌志,那須 聖
Citation(English)	Degree:Doctor (Engineering), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第10700号, Conferred date:2017/12/31, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	論文要旨
Type(English)	Summary

(論文博士)

論文要旨 (和文2000字程度)

報告番号	乙 第 号	氏 名	石 神 孝 裕
(要 旨) 我が国の地域づくりにおける中心的課題は、人口増加と市街地の拡大の制御から、人口減少への対応、大規模災害や気候変動に伴う集中豪雨への対応、健康まちづくり等の様々な課題に総合的に対応した持続可能な地域づくりにシフトしてきた。地域の持続可能性を追求するには、多種多様な課題を俯瞰的に捉えて定められた目標の実現に向けて総合的に取り組む必要があるが、我が国ではその基盤となる地域計画制度が不十分であるとの指摘がある。まちづくりの主体が行政から民間にまで広がりを見せていることや、行政内部では課題に対しては部局横断的な取り組みが必要とされている状況では、地域が将来的に目指す方向性が多様な主体の間で共有されていることが不可欠であり、共有の観点からみた計画枠組みのあり方が求められている。こうした背景のもと、本研究は、地域計画の共有に着眼して計画体系や計画プロセスからなる計画の枠組みのあり方に関して論じている。 第3章では、本研究の基礎的な考えとなる地域計画の枠組みと共有の関係について論述した。まず計画を共有することの必要性和、共有を促進するための方法等を整理し、計画の共有を促進する際の鍵となる共感の必要性に言及している。その上で、計画の共有の実現を目指すための地域計画の計画体系および計画プロセスのあり方を提案した。 第4章では、第3章で提示した計画枠組み（計画体系、計画プロセス）の実務への適用可能性に関して検証をおこなった。計画体系に関しては、さいたま市における都市計画マスタープランの改定および都市計画道路の見直しに関する取り組みを対象に、都市計画の目標、都市づくりの基本戦略、分野別計画（今回は道路網計画）、整備プログラム、個別路線の計画・事業といった全体の関係性を定義するとともに、これに基づいて目標、基本戦略、計画等の検討を行い、計画策定を行うことができた。計画プロセスに関しては、道路ネットワークの再検討を進めることとなった調布市において、“3つの並行する計画プロセス”を導入し、計画づくりを透明かつ公正に進めることができることを明らかにした。 第5章では、現状で計画間の整合性が確保されているかどうかを明らかにするために、自治体が策定した上位計画と分野別計画の間の整合性の実態の把握を行った。地域づくりに関わる計画を対象に、計画書内で用いられている単語の種類および出現数を用いて、多次元尺度法により計画相互の類似性を概略的に表現することを試みた。この結果、分野横断的な上位計画である総合計画を中心に、その周りに分野別計画が分布するように表現できたこと、環境関連の計画は比較的近くに分布すること等、自治体としての計画の体系をグラフとして示すことができた。計画同士の類似度が低いとされた計画書では都市計画マスタープランの中で防災に関わる記載が見られないなど、計画間の整合性が図られているとは言い難い状況が確認された。 第6章では、行政内の部局間で共有を促進するための地域空間評価に関して論述した。自治体の各部局は、自らが担当する施策の効果には関心があるものの、その施策が及ぼす影響にまで思いが至らず、			

総合的にみると持続可能ではない判断をしてしまう場合がある。これを防ぐには、施策を多視点で評価する地域空間評価が効果的と考えられる。そこで、地域空間評価の自治体への受け入れ可能性を明らかにすることを目的に、地域空間評価を試行し、その結果を用いて行政実務担当者を対象としたアンケート調査を実施した。地域空間評価によって施策オプションのトレードオフの関係を簡便に表現することができるようになるとともに、行政実務担当者へのアンケートの結果、他視点で評価することに対する重要性を9割の回答者が認識しているとの回答が得られ、この仕組みを導入することに一定の理解が得られることが確認された。

第7章では、地域計画を市民と共有するためのプロセスに関して論述した。市民とともに地域計画の共有を促進するということは、計画を市民が受け入れ、その計画のもとで活動する状況をつくることである。そこで、地域計画の計画プロセスが市民による地域計画の受け入れ度合いに与える影響を検証した。3つの並行する計画プロセスを導入して計画の策定を行い、その計画に関する情報を用いてWEBモニターアンケート調査を実施した。回答者を2群に分けて、計画プロセスの情報量が異なる2種類のアンケートを作成し、いずれかを熟読した上で計画の受け入れ度合いを回答させた。その結果、3つの並行する計画プロセスを導入した方が、計画の実現に向けて協力したいとの意向や行政を信頼する回答者が多く、計画の受け入れやすさが高まることを明らかにした。

第8章では各章の成果を踏まえ、地域計画を行政内および市民等と共有するための計画体系やプロセスのあり方に関してとりまとめた。

備考：論文要旨は、和文2000字と英文300語を1部ずつ提出するか、もしくは英文800語を1部提出してください。

Note : Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1copy of 800 Words (English).

注意：論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。

Attention: Thesis Summary will be published on Tokyo Tech Research Repository Website (T2R2).

(論文博士)

論文要旨 (英文)

(300語程度)

(Summary)

報告番号	乙 第	号	氏 名	石 神 孝 裕
(要 旨) In order to develop a region sustainably, it is necessary for local governments and the public to comprehensively tackle various challenges in a wider perspective. However, there are discussions that the planning framework for developing sustainable regions is inefficient in Japan. Since the players of regional development are becoming more diverse, the direction of the region needs to be shared among them. Therefore, a planning framework is required to promote sharing the regional plan more effectively. In this research, we focus on the sharing of regional plan and discuss the planning framework consisting of planning system and planning process. Three important issues of this research are the following; the first is the practical application of the proposed planning framework. Since the theme of this research is closely related to the internal administrative system and vertically divided system, cooperation with administrative practitioners is indispensable. Through an application of the proposed practical planning framework, under the cooperation with administrative practitioners, it was found that the framework can be introduced in different regions. The second is collaboration between multiple departments to promote sharing minds within the administration. We utilized the regional spatial evaluation that introduced the concept of sustainability assessment, and established a mechanism to promote collaboration among different departments within the administration. The third is the planning process for sharing plans with citizens. Sharing the regional plan is to create the situation that the citizens accept the plan and act based on the plan. Therefore, we examined the influence of differences in regional planning process on the acceptance level of regional plan among citizens. As a result, even with the same planning content, it was found that those who were introduced the "three parallel planning processes" were more open to accept the plan.				

備考：論文要旨は、和文2000字と英文300語を1部ずつ提出するか、もしくは英文800語を1部提出してください。

Note : Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1copy of 800 Words (English).

注意：論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。

Attention: Thesis Summary will be published on Tokyo Tech Research Repository Website (T2R2).